

第7回 巨瀬川流域治水推進会議 議事要旨

日時：令和7年3月4日（火）14:00～15:15

場所：筑後川河川事務所 1F 第1会議室

【第7回会議の主旨】

「巨瀬川流域治水プロジェクト」の取組推進状況のフォローアップ

1. 開会

（筑後川河川事務所：牧之内技術副所長）

- ・ 令和5年7月の災害以降、皆様にと共にプロジェクトを策定し推進しています。
- ・ 巨瀬川流域の浸水被害を軽減するために、皆様とともに、流域が一体となった流域治水の取り組みを進めていきたいと思います。

2. 巨瀬川流域治水推進会議について

- ・ 規約の改正等

会議の実施事項として、「巨瀬川流域治水プロジェクト」の取組み進捗状況等のフォローアップを追加することについて合意。

- ・ 今後、年に1回取組み進捗状況についてフォローアップを行う。
- ・ 進捗状況の公表
年1回のフォローアップ後、「巨瀬川流域緊急治水対策プロジェクト」取組み進捗状況は、筑後川河川事務所ホームページで公表する。

3. 令和7年2月末時点における「筑後川水系巨瀬川流域緊急治水対策プロジェクト」の取組進捗状況等の共有（意見交換）

（久留米市）進捗状況について報告

→（九州大学：小松名誉教授）

- ・ この短期間に、多面的にしっかりと取り組まれているという印象である。
- ・ 田んぼダムを効率的に実施するための取組みは何かありますか？

（久留米市）

- ・ 現在は地形等の条件から場所により堰板の形を変えながら取り組んでいるが、現地条件等をふまえ効率がよい堰板の形状を調査する等、検討していきたい。

（うきは市）進捗状況について報告

→（九州大学：小松名誉教授）

- ・ こちらも多面的にしっかりと取り組まれているという印象を受けた。
- ・ 屋外放送は豪雨時に雨音で聞こえない場合があるが、高性能スピーカーは豪雨時に試験放送などで確認していますか？

（うきは市）

- ・ 豪雨時に音声がどのような状況かという視点では試験をしていない。

今後、ご意見を踏まえ検討していきたい。

- ・うきは市では、防災情報の多重化として、防災無線情報の発信には、屋外スピーカー以外にも、各家庭へ戸別に受信機の配布を行っています。

今後は、さらに防災行政無線アプリの活用を予定しています。

(福岡県) 進捗状況について報告

→ (九州大学：小松名誉教授)

- ・藤波ダムの事前放流の仕組みについてご説明いただきたい。
出水時の操作との違いなども含めて教えていただきたい。

(福岡県)

- ・事前放流は、利水放流管により不特定容量分を放流するようにしています。
出水時は、常時満水位を超過した場合に常用洪水吐きから自然調節により放流することになっています。

(国土交通省) 進捗状況について報告

→ (福岡県：久留米県土整備事務所長)

- ・小屋場橋の改築工事は、橋梁管理者である福岡県が施工をしています。
施工主体に福岡県を追加下さい。

(国土交通省)

- ・承知しました。

全体に対しての意見等

(九州森林管理局：山部森林土木指導官)

- ・今回のプロジェクトは、河川や砂防の対策だけでなく森林保全も対策として進めることになっています。森林保全は、効果がすぐに見えてくるものではないので地味に感じますが、適切に進めることで確実な効果を発揮します。
- ・近年豪雨が増えていますが、昭和30年以降に実施した植林等の効果が発揮され、当時から年間の被害面積は大きく減っています。
- ・現在、戦後に植林した森林が伐採期を迎えており、今後も森林が持つ治水効果が発揮されるために、適切な森林保全の取り組みを進めていきたいと思います。

(九州大学：小松名誉教授)

- ・令和5年7月の水害からまだ2年も経過していない中、各主体がスピーディーにしっかり取り組みを進めており、流域治水の取組が力強く推進されていると感じた。
- ・一方で、「巨瀬川流域緊急治水対策プロジェクト」の実施期間は概ね5年であるが、対策の機能を持続していくには、今後はその後（令和9年度以降）のメンテナンスについても考えて進めていく必要がある。
- ・筑後川中・下流域は、近年特に降雨が激甚化する傾向にあり、具体には近10ヵ年で、筑後川中・下流域の降雨量は、24時間年最大雨量が1.5倍近くになっている。
温暖化による降雨量の増加は、まだ途上の状況で、今後更なる雨量の増加が懸念される。しっかりと防災対策を進めていただきたい。

以上